

2019/10/16

No.158

●編集・発行

下郷町青少年育成町民会議
(町教育委員会事務局内)

〒969-5345

福島県南会津郡下郷町大字
塩生字大石 1000

TEL.0241-69-1168

FAX.0241-69-1167

下郷町青少年育成町民会議だより

青少年の主張発表、青少年健全育成作品コンクール、パークゴルフ大会

第35回下郷町青少年の主張発表者

小学生の部

No	氏 名	学校名	学 年	題 名
1	ゆだ いぶき 湯田 衣吹	檜原	5 年	下郷町から広げたい 思いやりの心
2	ゆみた あおい 弓田 蒼彩	旭田	5 年	新聞から学んだこと
3	きた しおん 北 心温	江川	5 年	大切な宝物
4	さいとう ゆうな 斎藤 優奈	檜原	6 年	一歩立ち止まって考えよう、 自分の行動
5	さとう くう 佐藤 碧海	旭田	6 年	「人生初」だらけの修学旅行
6	わたなべ あおい 渡部 葵	江川	6 年	これからの下郷町を思っ

中学生の部

No	氏 名	学校名	学 年	題 名
1	ながぬま しほ 長沼 志保	下郷中	1 年	最近の勉強法
2	ほし あやの 星 朱乃	下郷中	2 年	柔道を通して学んだこと
3	たまかわ かれん 玉川 かれん	下郷中	3 年	出会いに感謝

7月17日(水)下郷ふれあいセンターにおいて、第35回下郷町青少年の主張発表及び青少年健全育成作品コンクール表彰式が開催されました。町内小学校4年生以上の児童及び中学生約250名が参加しました。各学校の代表者9名が、主張発表を行いました。自分の考えを文章にすること、また、伝えることの難しさを感じると共に、伝える楽しさも知ることの出来た良い機会となったのではないのでしょうか。

また、青少年健全育成作品コンクール(ポスターの部・標語の部)においても、どれも素晴らしい作品で審査も困難を極めました。入賞作品については最後のページに掲載しています。主張発表終了後、入賞者全員に賞状と盾が授与されました。

町青少年の主張発表・ 青少年健全育成作品コンクール表彰式

6月23日(日)大川ふるさと公園において、青少年健全育成世代間交流パークゴルフ大会が開催されました。今年度よりパークゴルフへ種目変更となりましたが、パークゴルフ協会の方からのルール説明を受けながら、皆楽しくプレーすることができました。大会には16チーム・約64名が参加しました。当日は雨も降らず、小学生からお年寄りまで、世代を越えて楽しく交流することができました。成績は次のとおりです。

青少年健全育成世代間交流パークゴルフ大会

【団体の部】

優勝 刈林チームA
準優勝 落合育成会C
3位 落合育成会B

○一般の部
優勝 佐藤 忠男
(タケチャンマン)

【個人の部】

○小学生の部

優勝 宇梶 芭流玖(姫川)
準優勝 渡部 純平(成岡②)
3位 室井 治哉
(三ツ井チーム)

○高齢者の部
優勝 佐藤 一男
(刈林チームA)

○中学生の部

優勝 五十嵐 匠
(刈林チームA)
準優勝 櫻木 美優
(落合育成会B)

3位 湯田 恒弥
(ならはらA)
【ホールインワン賞】
星 吏(落合育成会C)

3位 白澤 悠馬
(タケチャンマン)



下郷ふるさと祭り宵夜祭における巡回補導

7月27日(土)に大川ふるさと公園で開催されたふるさと祭り宵夜祭において、町民会議補導部会事業の一環として、南会津警察署や少年補導員・町防犯協力会会員の方々と合同で、会場内外の巡回補導を実施しました。ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

青少年の主張発表 優秀賞

小学生の部

下郷町から広げたい 思いやりの心



榎原小学校5年
湯田 衣吹

「大丈夫ですか。」「手伝いましょうか。」この言葉を聞いてみなさんは、どう思いますか。そうです。とてもあたたかくなりますね。たくさんのおいやり言葉を下郷町でよく耳にします。下郷町は、どこの市や町よりも思いやりの心があふれる町だと思っています。私が思うようになったきっかけが二つあります。

一つ目は、私が学校から帰る途中、道端で困っているおばあさんを見かけました。そのおばあさんは、道路を渡りたそうにしているのですが、なかなか渡ることができずにいました。私はとても気になったのですが、怖くて声をかけることができず、そのまま見ていました。すると、男の人が走ってきて、

「どうしたのですか。だいじょうぶですか。」と優しく声をかけました。おばあさんは、「道路を渡れなくて困っているのです。」と言いました。その後、男の人は優しく手を差し伸べて道路を渡っていました。おばあさんは何度もお礼をしていました。私は、その時、心が温かくなったと同時に、なんで自分から声をかけられなかったのだろうと少し悔しい気持ちにもなりました。みなさんだったら声をかけることはできますか。これから私は、困っている人に声をかける勇氣を持ちたいと思います。

二つ目は、いつも通学で通る歩道を近所の人たちが、ボランティアで清掃してくれることです。落ち葉や小さなゴミの他に、道端に生えている雑草まで抜いて、歩道をきれいにしてくれます。その歩道はいつもきれいで通る度に気分がよくなります。近所の人たちは、みんなが気持ちよく生活できるようにと考えながらボランティア清掃をしているのだと思います。私は、本当に優しく思いやりのある人ばかりだなと感じました。「誰かのために」これが私の考える思いやりの心だと思っています。みなさんはどう考えますか。相手のために何かをすると自分も気持ち良くなりませんか。みなさんも「誰かのために」を合言葉に行動にうつしてみると気持ち良くなりますよ。

下郷町には、たくさんのおいやり言葉や行動があります。けれど、これを下郷町だけでとどめておくのはもったいないと思います。下郷町から思いやりの心をどうにか広めていくことはできないでしょうか。

広めていく方法があります。しかし、それは私一人ではできません。みなさんの力が必要です。一緒に思いやりの心を広めましょう。

思いやりの心を広めるには、みんなが笑顔になるには、自分が笑顔で生活しなければいし、優しくしてほしいなら自分が優しくならなければいけないと思います。

そして困っていそうな人には「大丈夫？」と声をかけましょう。自分からそうすることで思いやりの心を持つて人が増えると思いませんか。

次に、ボランティア活動に積極的に参加していくと良いと思います。ボランティア活動を通して、たくさんのおいやり心の人役に立って、思いやりの心を届けていけば必ず思いやりの心は広まります。

みなさん、思いやりの心を私と一緒に、下郷町から広めていきましよう。そうすれば、福島県だけでなく日本中に思いやりの心が広まってくはずで。それが下郷町からだっ

新聞から学んだこと



旭田小学校5年
弓田 蒼彩

みなさんは新聞と聞いて、何を思い浮かべますか。私の答えは、もちろん、テレビなんです。テレビをよく見るからです。でも、それは、最近までの話です。

実は、学校の授業で新聞の勉強をしてから、新聞のイメージが変わりました。そこで、私が感じた新聞のすごさと、私が気になったある新聞記事について紹介します。

そもそも新聞の役目は何でしょうか。それは、私たちに情報を届けてくれることです。

しかし、情報を届けてくれるものは、ほかにもあります。それは、テレビやラジオ、インターネットです。テレビやラジオは、アナウンサーが

いて記事を読んでくれるので、私たちはただ見たり聞いたりするだけで情報を手に入れることができます。また、インターネットは調べ方を工夫するだけでたくさんさんの情報を手に入れられます。このように考えると新聞は他のメディアに比べて、使い勝手が悪く感じます。しかし、新聞には、新聞にしかないすばらしいひみつがあるのです。

ひみつその一、それは、新聞の情報は正確であることです。なぜ正確な情報が用意できるかというと、多くの人にインタビュをして、正しい情報を得たり、記事にまちがいないか何人もの人でチェックをしただりしているからです。一方で、インターネットはたくさんさんの人が自由に情報を発信できる反面、情報が正確とは言えないものがあります。ですから、新聞には、正確な情報を知りたい時にとても役立つ便利さがあると言えます。

ひみつその二、それは、知りたい情報を自由にチェックできることです。みなさんも、テレビのニュースは、よく見ると思います。

そのニュース番組は、三十分ほどの放送でいくつぐらいの出来事を伝えていていると思いますか。正解はおよそ十個です。テレビのニュースは、テレビ局の人が私たちに伝えたい内容を、テレビ局の人が決めた順序で

しか知ることができません。一方で、新聞にのっている出来事は、なんとおおよそ八百個です。しかもその八百個の記事は、自分が読みたい時間に読みたい記事だけを選んで読めます。また、それぞれの記事に見出しがついているので、その見出しさえ読めば、いろいろなことが分かります。このように、新聞には他のメディアにはない、すばらしい長所があるのです。

新聞についての学習をしている時、ある見出しが目飛び込んできました。それは先日山形県沖で発生した地震についての記事でした。地震の翌日の記事では、三十人以上がけがをし、停電も起きていると書いてありました。真夜中に、とつ然地震におそわれ、停電もし、さらにけがでもしたら、そう思うと、とてもこわくなりました。それが、となりの県で起きていたので、背筋がこおるような感じがしました。

翌日も新聞を見てみると、ある記事が目に入りました。地震で家がこわれた人へのインタビュー記事でした。「地震で家がこわれたのは残念だけど、家族や友人はみんな無事だった。本当に良かった。」と書かれていました。

その時、私は、自分の家族を思い出しました。何度も兄弟げんかをして、お父さんやお母さんに怒られ

たりすることもあり、正直、やだなあ、と思う時もあります。しかし、私が今楽しく元気に暮らしているのも家族のおかげです。そんな家族を私は失いたくありません。このような当たり前の生活は地震などの災害が起きれば、変わってしまうかもしれません。新聞記事が私にそれを考えるきっかけを与えてくれたのです。

このように新聞は、世の中の出来事を私たちに伝えてくれるので、今まで知らなかった世界を知ることができま。さらに、興味をもった記事を知りたく読むことで、自分の考えを深めることもできます。私は、新聞を通していろいろなことを目に向けて自分の知っていることを広げ、それに対して自分の考えをもつことの大切さを学びました。

大切な宝物



江川小学校5年
北 心温

みなさんには、宝物がありますか。その宝物は何ですか。宝物と聞かれると、テレビゲーム

やアイパッド、誕生日に買ったもの、グロブやサッカーボールなどいろいろ出てくると思います。

ぼくが、一番大切な宝物だと思っているのは、「友達」です。

それは、友達がいると、くやしきことやかなしいこと、心の中のモヤモヤしている気持ちなど、何でも気軽に話をするので、心がすっと軽くなり、とても楽になるからです。

ぼくは、ソフトボールのスポーツ少年団に入っています。週に三日練習があります。そして、週末は毎週のように試合があります。試合のときに、大事な場面ミスをしてしまい、落ち込んでいると、「ドンマイ。ドンマイ。」

と同じチームの友達がはげましてくれま。また、その試合で負けてしまった時、クラスの友達に、

「きのう、ソフトボールの試合があったんだけど、負けちゃったんだ。チームのみんな、声をかけあいながらがんばったんだけど負けちゃったんだよね。くやしかった。」と話す。

「そっかあ、それはくやしきよね、でも、チームのみんなが心を一つにしてがんばったんだし、次の試合で勝てるようにまたがんばろうよ。」

とはげましの言葉をかけてくれます。おかげでその後、「よし、次の

試合では、絶対に勝てるようにがんばろう。」という気持ちになります。

そして、次の試合の結果、

「今回は、三位になったよ。」

と話す、

「え、すごいじゃん。がんばったね。また次の試合でもがんばってね。応援してるからね。」

と、またはげましの言葉をかけてくれるので

「よし、また次の試合では、さらに上の順位を目指してがんばるぞ。」という力がわいてきます。

ぼくのクラスには、ゲーム係という係があります。ゲーム係の友達、毎月決まった日に全員で楽しめる遊びを考えてくれます。ぼくは、クラス全員で遊べるその日を、毎月楽しみにしています。一人でも楽しくテレビゲームなどはできますが、やっぱり友達といっしょだからこそ、時間をわすれて、楽しく、あせを流しながら遊ぶことができるのだと思います。みんな、

「じごくのおにごっこ。」

と言って校庭を走り回ったり、ドッチボールをしたりして遊んでいる時が、一番楽しいと思います。そして、「友達って大切だな。」と思うしゅん間もあります。

これからの学校生活で、江川つ子まつりや六年生を送る会、来年は、修学旅行などたくさんの行事があり

ます。

ぼくは、クラス目標である、「思いやり笑顔あふれる五年生」を合言葉に、ぼくの一歩の宝物「友達」を大切にしながら、これからの学校生活を送りたいと思います。そして、これから先、大人になっても、ずっと代わらず、一番の宝物、「友達」を大切にして生活していきます。

一歩立ち止まって 考えよう、自分の行動



植原小学校 6年
斎藤 優菜

みなさんは、動画で、少年が線路に進入して踊ったり、店の危険な所に入って喜んだり、他人の家の屋根に登って騒いだりしているのを見たことはありますか？それを見て、みなさんはどう思いますか？

私はそういう悪ふざけ動画を見ると、「なぜそんなことをするのだろう。」と思います。

結局、やってしまったことを後悔したり、みんなに責められたりするの、なぜやってしまうのか不思議

だからです。

私は、スマートフォンを使って、この事を調べてみました。いろいろな記事を読んでいると、このような行動は、ほんの小さな好奇心から起こっていることが分かりました。やってしまった人も、本当は、「やってはだめだ。」と最初から分かっているはずですが、でも、注目されたいとか、人の驚く姿が見たいという気持ちでやってしまうようなのです。

私も、似たようなことをしてしまったことがあります。妹が大切にしているおもちゃを隠してしまったのです。理由は、妹が驚く顔が面白そうで見えてみたかったからです。結局妹は泣いてしまいました。私はその顔を見て、「少し面白いな。」という気持ちと、「やらなければよかった。」という半々の気持ちになりました。でも、その後も気持ちがすっきりせず、やっぱり「やらなければよかった。」という気持ちが強くなりました。小さな好奇心やちよつとしたふざけから、いたずらをしてしまう人は多いと思います。だから、私もその気持ちはわかります。

でも、それがだんだんエスカレーターしてしまつと、法律に触れる大変なことになると思います。それに、本人の命も危険だし、周りにもすごい迷惑がかかってしまいます。

そして、動画は日本の中だけでな

く、世界中の人が見る事ができます。たった数人の非常識な日本人の行動で、日本人のイメージがどんどん変わってしまうかもしれません。

例えば、日本が人だとすると、イメージが悪いこの人は、世界に嫌われてしまいます。たった数人の間違った行動で日本全体が悪く思われたら、みんな嫌な気持ちになると思います。悪く思われるよりは、良く思われる方がいいに決まっています。

私たちは小さい頃から、「自分のやられて嫌なことはしない。」というのを教わります。

これは、誰でもが分かっている常識的なことです。でも、それをしてしまうということは、何か理由があつたからだと思います。誰かに「やれ。」と言われたのかもしれない。日頃のストレスをぶつけたいのかもしれない。

でも、悪いことには変わりはありません。どんな理由があつても、ならぬことはならぬもののなのです。

こういう迷惑なことをする人が増えないように、自分がこれからどうすればいいのか考え、二つのことを思いつきました。

一つ目は、悪いことをしている人に、叫びかけるということです。悪いことをしているということを、しっかり知ってもらうためです。で

も、言い方を気を付けないと、逆に反発してしまうかもしれないので、厳しさと優しさが必要だと思います。

二つ目は、自分自身が「しっかり先のことを考え、自分の意見で動き、他の人に流されない」人になるということです。「しっかりと先のことを考える」というのは、これをしてしまったらどうなるのかをよく考え、人の迷惑になる、命に関わる危ないことはしない、ということです。「自分の意見で動き、他の人に流されない」というのは、誰かに悪いことに誘われたとしてもきっぱり断り、自分が良いと思うことをする、ということです。

みんながこういう行動をとっていれば、嫌な気持ちになる動画もなくなるはず。みなさんも、一歩立ち止まって考えてみませんか？自分の行動を。

「人生初」だらけの 修学旅行



旭田小学校6年
佐藤 碧海

「あふれるパワー 見せつける闘志 戦うのさ いざたくましく ぶっ飛ばせさあ、ウィーラー オイ・オイ・オイ・オイ」

これは、楽天イーグルス・ウィーラー選手の応援歌です。楽天生命パーク宮城には、この歌をはじめ、選手たちの応援歌が鳴り響いていました。電光掲示板には、応援歌の歌詞が映し出されています。ぼくたちは、いつの間にかたくさんの応援団の中に入って、一緒に応援歌を歌い、手拍子で選手を応援していました。野球場の応援はとても熱いんだなと思いました。最高に楽しい野球観戦でした。これが一つ目の「人生初」です。

二つ目の「人生初」も野球場にありました。

野球場に着くと、てん乗員さんが、「この野球場内での買い物は現金ではできません。全てこのカードで買

い物をしてください。」
と言いました。ぼくは、
「えっ？どういことだろう？」

と思いましたが、よく聞くと、そのカードにお金をチャージすると、その分は買い物ができるということでした。今話題のキャッシュレスのことかな？とこのとき思いました。キャッシュレスで買い物をするのと、これが二つ目の「人生初」です。野球場には、楽天や巨人のグッズがたくさん売っていました。ぼくは、楽天の応援バッツを買いました。キャッシュレスの買い物はとてもいい気分でした。

このおみやげを買った後、三つ目の「人生初」がありました。それは、チケットを持ち歩かないと、自由に野球場を出たり入ったりすることができないということを知ったことです。友達の大知君と一緒におみやげを買って球場に入るときです。係の人に

「チケットを見せて。」

と言われて、ぼくはすぐにあったのですが、大知君のチケットがありません。大知君が言うには、席のところにバックを置いてきちゃった、とのことでした。頼まれたぼくは、大急ぎで席まで走りました。大知君の席のあたりを見てもバックがありません。ぼくはまた入り口にもどりました。すると、大知君の背中に、

青いバックがあるではありませんか？「青いバック持ってるじゃん！」
と言うと、

「あ、そうなの？ごめん。」

と言って、初めてバックを背負っているのがつきました。このようなやりとりがあつて、ぼくたちはやっと、席に戻ることができました。旅行二日目に、最大の「人生初」がありました。それは、班別行動の時に、二手に別れた友達と会えなくなりました。

二人と二人に別れたぼくたちは「地下鉄仙台駅の入り口で会うことになっていました。ぼくと結太君は切符を買って待っていました。

しかし、侑君と龍来君がいつになっても現れません。心臓がドキドキし始めました。（どうしよう）と思っていたとき、結太君が、
「駅の人にたのんで放送してもらえ

ば？」

とぼくに提案しました。（そうだ！それなら絶対来る！）と思い、駅員さんをお願いしました。地下鉄仙台駅に二人を呼び出す放送が流れました。そしたら本当にすぐに会うことができました。一時は、集合時間におくれたらどうしようと思いましたが、結太君の知恵のおかげで、乗り切ることができました。

このように、たくさんの「人生初」を経験し、最高に楽しかった修学旅

行でしたが、この中でぼくは、「自分で考えて行動することの大切さ」を学びました。何かが起きたとき、よく考えれば必ず解決できるのです。これからいろいろなことが起きると思います、この修学旅行での出来事を思い出して、あきらめずにがんばっていききたいと思います。

これからの 下郷町を思っ



江川小学校 6年
渡部 葵

みなさんは、下郷町のことが好きですか？

ぼくは、大好きです。下郷町には、美しい自然があります。冬は、たくさん雪が降り、大好きなスキーができます。大内宿や塔のへつりなどがあり、日本でも有名な観光地になっています。そのため、テレビ番組でもよく取り上げられるし、芸能人もたくさん来ます。

だからこそ、ぼくは下郷町をもっともっと美しく、素晴らしい町にしていきたいと思っています。そし

て、もっと人気のある町にしたいと思っています。

だけど、心配なこともあります。ぼくの家は昔の原にありますが、家の近くだけで、六件も空き家があるのです。今、僕のクラスは九人です。全校児童も五十九人しかいません。

ぼく達の学校は、もうすぐ、複式学級になってしまうという話も聞きました。下郷町に暮らす人がどんどん減っていることが、とても心配なのです。

そこで、ぼくは昔と比べてどのくらい人口が減ったのか、学校にあった資料集で調べてみました。すると、予想していた以上に人口が減っていることが分かりました。昭和三十年に約一万五千人いた人口は、現在約五千八百人となり、約九千人も減っていました。

また、昭和三十四年に二千四百十九人いた小学生の数も、平成三十年には二百三十七人と十分の一以下になっっていました。きっと、下郷町で育った多くの人が、他の所に行ってしまったのではなかつたと思います。

このまま人口が減り続けると、ぼくたちが大人になったころの下郷町は、いったいどうなってしまうのかとても心配になりました。

そして、いったい、どうしたら下郷町に暮らす人がふえ、他の町にひっこさないようになるのか、ぼく

は考えてみました。

まず考えたことは、下郷町をもっと美しい町にしておくことです。下郷町には、美しく豊かな、自然があります。だけど、道路に、ゴミが落ちていたりするところもあるし、ごみのポイ捨てをしている人を見たこともあります。ぼくも、三年生の時にポイ捨てをしてしまったことを、覚えています。今ふりかえってみるとぼくのやった行動はすごくダメなことだと思いました。美しい自然があっても、道路にごみがある町では、本当に美しい町とは、言えないと思います。だから、これからは、自分がポイしてしないとはもちろん、ゴミが落ちていたら進んで拾ったり、みんなに呼びかけたりしながら、ごみ一つない下郷町を目指していきたいです。

もう一つ、考えたことがあります。それはこの美しい下郷町をもっとたくさんの人達にアピールし、知ってほしいということです。

ぼくは今年、YouTubeにあった、下郷町の紹介をした動画を見つけ、観てみました。

自分でも知らなかった、下郷町の美しさをたくさん知り、素晴らしいところに住んでいるんだなとうれしく思いました。

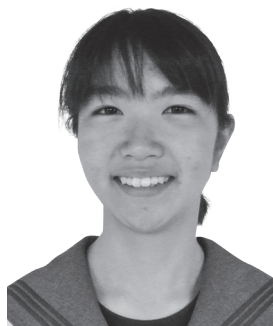
だけど、ぼくは今までの紹介動画のことを知りませんでした。きっと、この動画のことを知らない人が

下郷町にもたくさんいると思います。だから、ぼくが見た動画を、たくさんの人達に紹介して、下郷町に住む人も、他の所に住んでいる人も、下郷町が素晴らしいところだと感じてほしいです。そして、下郷町にくらす人が一人でも多くいるといいと思います。

だから、ここにいるみなさんと協力して、ごみ一つない美しい下郷町をつくっていきませんか。そして、大人になった時、他の町に住む人、その美しさを自まんでできる町をつくっていきましょう。

青少年の主張発表 優秀賞 中学生の部

最近の勉強法



下郷中学校1年
長沼 志保

皆さんは、授業中、どのような方法で学習していますか。最近の学習方法は以前と少し変わってきているようです。

私がおもしろい授業だなと感じたのは、小学校での算数の授業です。

その日の課題は「 $(-5) + (+8)$ 」の答えはなぜ3になるのか」というものでした。簡単に計算はできても、なぜ3か、と聞かれると説明に困ってしまいました。私は、まず、ノートに数直線を書きました。真ん中に0、左は－、右は＋。5の場所を確認し、そこからプラス8なので、数直線で右に8ずらす。そうすると、その場所がプラス3になるので、答えはプラス3になる、という説明を考えました。そのあと、班の人で話し合ってみると、同じような考えで

した。

最近「答を出す」だけではなく、「なぜそうなるのかを説明する」という学習に代わってきたようです。自分で予想したり、考えをまとめ話し合うという授業が多くなってきました。

私は、このような学習方法の、メリットは何かを考えてみました。

一つ目は、自分とは違う考え方を知ることができる点です。このことは自分の考え方を広げてくれます。自分では思いもつかなかった考え方を友達から指摘されることもありま

す。二つ目は、友達のいいところを知ることができる点です。「この人はたくさん知識があるなあ」「あの人は説得力のある説明をするなあ」「口数は多くないけど、しっかり自分の意見をもっているなあ。」など、今まで知らなかった友達の一面を見つけることができます。

三つ目は、説明されたり、教えられたりして、理解が深まることです。学んだことの定着の度合いを表すラーニングピラミッドというものがあるそうです。「講義」だけでは5%の定着率ですが、「他の人に教える」学習方法では、90%まで定着率があるそうです。このことで、わからないままで授業が進んでしまうことを防ぐことができます。自分があい

まいな理解をしていると、友達に説明することができません。お互いに良い影響があると感じました。

しかし、課題もあるようです。

このような学習をするには、話し合いのための表現力や知識が必要だということです。ニュースに関心を持つこと、本を読んで語彙を増やすこと、いろいろな体験をしているなど、広い知識と経験があれば話し合いが充実しないと思います。また、自分がどうすればいいかわからないとき、すぐに人に聞いてしまう人にとっては、とても楽な学習になってしまう可能性があります。さらに、中学校では、学習内容によって、みんなが話合ったり説明しあったりする時間をとることは大変なのかもしれない。

いくつかの課題もありますが、私は、以前の学習方法より、最近進められている学習法のほうがやる気が出てくるように思います。知識を得るだけでなく、自分の考えを持ち、その考えを説明できるようにして、学習を進めていきたいと思います。そして、学ぶことが楽しいと思えるようにしていきたいと思っています。

柔道を通して 学んだこと



下郷中学校2年
星 朱乃

皆さんは柔道と聞いてどんなことを思い浮かべますか。投げられて痛そう、危険、怖いといったイメージを持つ人が多いのではないのでしょうか。

私が柔道を始めたのは、小学校三年生の時です。友達から誘われ、なんとなく始めた柔道でしたが、長いこと続けていくうちに、少しずつ柔道に対する思いが変わっていきま

した。私達柔道部は、スポーツ少年団も含め、現在八人で活動しています。少人数でありながらも、互いの技の向上をめざし、日々練習に励んでいます。大会では、自分の投げ技が決まり、勝利することもうれしいですが、仲間が勝つ瞬間に立ち会えるのも自分の事のように感動を覚えます。ですが、勝つというのは、そうたやすいことではありません。小学生のころの私は、県大会で何度も負

けては泣いての繰り返しでした。強くなるには厳しい練習と向き合っていかなければなりません。

中一の中体連県大会は、周りが年上の選手ばかりでおじけづき、勝ちたい気持ちよりも不安ばかりが大きくなっていました。それでもなんとか気持ちを奮い立たせ、激戦を勝ち抜き、迎えた決勝戦、対戦相手は、去年県大会で優勝している三年生の強敵でした。私は必死に技をかけ続けました。どれくらい時間が経過したでしょう。そのうちの一つの技が相手の足にひっかかり、ようやく倒すことができたのです。審判の「一本」という声が響き、静まり返った会場が一気に沸いた瞬間を、今でも鮮明に覚えています。また、あの時の私は、ここにたどりつくまでの辛さ・悔しさも吹き飛び、うれしさと共にやりきったという満足感でいっぱいでした。

そしていよいよ各都道府県から勝ち抜いた選手が集う全国大会の日を迎えました。大きな大きな会場は、たくさんの人で埋め尽くされ、私はこれまでになく緊張に襲われました。絶対一回戦を突破したい、勝ちたい、その一心で畳の上に私は立ちました。しかし、柔道はそう甘くありませんでした。相手の技の速さに対応できず、自分の柔道ができないまま敗れてしまいました。ようやく

この大舞台に立てたのに、たくさんの人に応援してもらったのに、私はただ泣くことしかできませんでした。その後、悔しい想いを抱きながら他の試合を観戦すると、技の数が多く人、切れのある技を持っている人がたくさんいることに驚かされ、自分の未熟さを痛感しました。そして、「絶対に全国でも戦える選手になりたい」という心に誓っていました。

次に待ち構える大会は中体連新人戦でした。しかし、それからの私は大きな壁にぶつかることとなりました。周りからの期待の言葉がプレッシャーとなり、大会に出ることも、人に投げられることにも恐怖を感じるようになったのです。「もつと自分から技をかける」「頭を下げるな」と先生に注意されながらも、思うようにできず空回りのとても苦しい時期が続きました。それでも、大会がある日は、忙しい仕事を休んで見に来てくれる父、朝早く起きて準備を手伝ってくれる母、私の気持ちをくんで励ましてくれる家族が大きな支えとなり、再び前に進むことができました。また、仕事で疲れていても一生懸命指導してくださる先生方や、厳しい練習と一緒に乗り越えてきた仲間がいてくれたからこそ、今の自分があるのだと思っています。他にも思いがけないところでたくさんの方々に応援していただいたこと

も決して忘れません。

私の目指す柔道は、自分から果敢に攻め、一本勝ちをする柔道です。日々、たくさんの人への感謝の気持ちを忘れず、これからも仲間と一緒にたくさん汗を流し、より強い相手に立ち向かっていきたい、そう強く思います。

出合いに感謝



下郷中学校3年
玉川 かれん

皆さんにとって「出合い」とはどんなものでしょうか？皆さんは今までたくさんの人と出合い、その人たちに支えられて生きてきました。そのひとつひとつの出合いには意味があるとあります。

十五年前、私はここ下郷町に生まれました。下郷町は、大内宿や湯野上温泉、観音沼といった多くの観光名所があり、春には町中を彩る沢山の桜が、夏には新緑に染まった壮大な自然が、秋には思わず目を奪われるような美しい紅葉が、冬にはうっすらと雪化粧した山々が、観光客を

出迎えてくれます。そんな下郷町で生まれ育った私は沢山の人に出会いました。私を大切に思い、愛してくれる家族、同じ目標に向かって共に戦ってくれる仲間、大好きな友人たち、私に大きな夢を与えてくれた人、数え切れないくらい沢山の出会いがありました。その中でも特に忘れられない大切な出会いを皆さんにご紹介したいと思います。

まず一つ目は、私に「教師」という夢を与えてくれた菊池省三先生との出会いです。小学生の時、当時の担任の先生から菊池先生について色々なお話を聞いたり、学校で講演をして頂いたりして、どんな先生なのかとても気になって自分なりに調べていたことを今でも思い出します。菊池先生は特に「話すこと」「聞くこと」の指導を徹底され、子供の健全な発達や人間形成上にも言葉によるコミュニケーションができることは非常に大切なことだという考え方を持たれています。私自身、自分の意見を相手に伝えたいのにうまく伝えられないことが多くありましたが、授業の中に話し合い活動や討論会など自分たちでコミュニケーションや意見を言い合う場が沢山あったおかげで、今では伝えたい内容をしっかりとまとめて自分の言葉で相手に伝えることが出来るようになりました。また、菊池先生の子供たちを

沢山「褒める」、どんな些細なことでも素晴らしいことだと思つたら「褒める」というやり方にもとても興味がわきました。人は何歳になつても褒められたらとても嬉しくて自然と笑顔になります。「褒める」ということは人を幸せにしてしまう魔法なのです。菊池先生との出会いから私と同じようにコミュニケーションのとり方で悩んでいる子供たちの手助けをしたい、私が菊池先生から大きな夢を与えてもらったように出会った全ての子供たちに将来への希望と幸せを与えられるようになりたい、そう強く思うようになりました。菊池先生との出会いがなければ私は教師という職業を目指していなかったと思います。そう思うと出会えたことは奇跡なのです。私はこの出会いを大切に、教師という高く大きな目標に向かって一生懸命頑張っていきたいと思っています。

二つ目は、三年生のみんなとの出会いです。みんなと出会ったのは三年前。緊張しながらもこれから始まる新しい生活に期待で胸がいっぱいだつたことを昨日のことのように思い出します。振り返ると楽しいことも苦しいこともたくさんあった三年間でしたが、私はこの学年でみんなと出会えて本当によかったと心から思えます。五月に行われた校内陸上大会。個人の種目に本気で取り組む

のは勿論のこと、学年関係なく声を枯らして応援する姿、長縄跳びで何回失敗しても声を掛け合い「勝ちたい」という一心で必死に跳び続ける姿、勝つても負けても笑顔でお互いを称えあえる姿、最高学年としてあるべき姿を見せられた素晴らしい大会だつたと思います。中学生になつてみんなと出会い、一人一人に何か変化があつたと思います。お互いに認め合い、いい刺激をもらったことで成長できたのではないでしょう。か。

今年の三年生の学年目標は、本気の力と書いて「本気力（しゃかりき）」です。最後の中体連大会、これから待ち受ける受験、そして中学校生活最後の一年を本気で頑張つて充実した年にしたい、そう強く思います。

私は三年生の皆さんと出会ったことで、何事にも積極的に取り組むことができるようになったと思います。何をやるにも「めんどくさい」「恥ずかしい」という言葉で終わらせていた私が、自ら生徒会活動や特設部の活動に取り込めるようになったのは、失敗を恐れずに、がむしゃらに頑張っている皆さんとの出会いがあつたからです。この出会いのおかげで、次のステップへ進む土台ができたように感じます。進学や就職が必要になってくる、積極性や表現力、辛いことも乗り越える力、人を



信じる力、などたくさんさんの力が付いてきたと思います。

私は、この二つの大きな出会いから、人と出会うことの大切さ、良い出会いがあれば人は変われるということを教えてもらいました。私たちの人生はこれから長いのです。今、この時間を共に過ごしている大好きな友人たち、先生方がいます。しかし、必ず別れの時がやってきます。辛く、悲しい別れを乗り越えた先に、新しい場所です新しい仲間たちとの素敵な出会いが待っていることで



しょう。ぜひ、その出会いを大切にしてください。これから出会うすべての人に「出会ってくれてありがとう」という気持ちを忘れないでください。出会い、それはあなたを変えてくれる素敵な魔法です。

私が、この主張を通して、皆さんに伝えたかったこと。それは「どんな出会いであろうと、それを大切に思えば、必ず自分に変化がある」ということです。

皆さんのこれからの人生に素敵な出会いがあることを願っています。

青少年健全育成作品コンクール入賞者

＊標語の部 小学生の部（5年生）

賞	氏 名	内 容	学 校
最優秀賞 1点	きた し おん 北 心温	あいさつは 心のとびら 開くかぎ	江 川
優秀賞 2点	ほし せ な 星 瀬那	命はね 家族がくれた 宝物	旭 田
	わたなべ あいる 渡部 愛琉	知ってるかい 見て見ぬふりは いじめです	檜 原
佳 作 4点	わたなべ り こ 渡部 理子	思いやり 見えない所に かくれてる	檜 原
	さとう ゆ ま 佐藤 由茉	優しい手 その手をつなぎ みな笑顔	旭 田
	くろもり たかひろ 黒森 貴尋	思いやり 笑顔あふれる 下郷町	江 川
	ゆ だ いぶき 湯田 衣吹	「ありがとう」 その一言で 笑顔咲く	檜 原

＊ポスターの部 小学生の部（6年生）

賞	氏 名	内 容	学 校
最優秀賞 1点	まつだ ゆうと 松田 結翔	あなたの家族にありがとうを	旭 田
優秀賞 2点	さいとう ゆうな 斎藤 優奈	大事な宝をこわさないで！	檜 原
	ゆだ まな か 湯田 愛香	ごみを拾うと心もきれい	江 川
佳 作 5点	まつや なつ き 松矢 夏月葵	君もやろう！ みんなでいっしょにゴミ拾い	檜 原
	さかい はつ き 酒井 葉月希	心つながればみんな笑顔	旭 田
	ゆみた あゆむ 弓田 歩	家族を大事に	旭 田
	わたなべ やまと 渡部 大和	あいさつは笑顔の実	江 川

＊標語の部 中学生の部

賞	氏 名	内 容	学 年
最優秀賞 1点	むろい かずま 室井 和真	思いやり 人と人をつなぐ糸	2
優秀賞 2点	ながぬま し ほ 長沼 志保	あいさつは 明るい町の みなもとさ	1
	さいとう ゆ き 斎藤 由記	まず、ひと呼吸 言葉にすること 考えて	3
佳 作 3点	つゆぎ あんり 露崎 天力	あいさつで 笑顔つながる だれとでも	1
	はが みさき 芳賀 美咲	ありがとう 誰かを笑顔に する言葉	2
	おやま しょう 翔 小山 翔	大丈夫？ 正義の言葉に 救われる	3

＊ポスターの部 中学生の部

賞	氏 名	内 容	学 年
最優秀賞 1点	さいとう ゆき 斎藤 由記	手のひらにあふれるくらいの 幸せを	3
優秀賞 2点	いなもと まさなり 稲本 雅響	みんなポイ捨てやめてくれ	2
	いがらし あずさ 五十嵐 梓	きれいな地域をつくろう	2
佳 作 3点	ほし こ の か 星 小乃果	SNS使い方に気をつけよう	2
	あべ さくら 阿部 桜々	そのゴミで動物のきき	2
	ほし なぎさ 星 凪紗	地球の限られた命を守ろう	3

